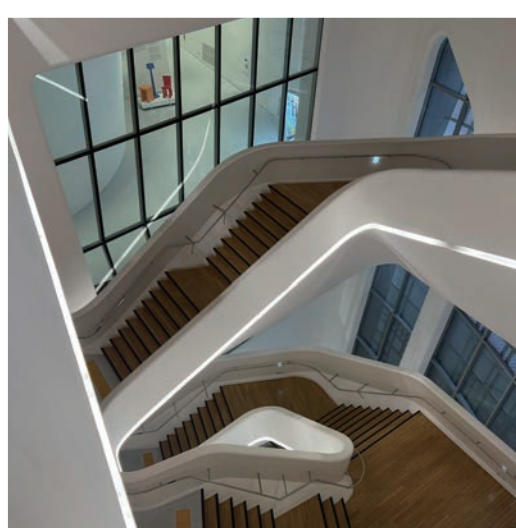




2025 年度 中学生韓国派遣 記念文集



韓国慶山市を訪ねて

JIEA



この文集は、城陽市国際交流協会が主催した、2026年3月24日から27日までの3泊4日の中学生韓国派遣団に参加した市内中学生12人の感想文です。

この事業は、姉妹都市である大韓民国慶山市^{キョンサン}への訪問・交流を通して青少年の国際理解を深めることを目的に、1994年から実施しています。今回で第21回を迎え、これまでに延べ193人の中学生が慶山市を訪問しました。韓国の文化や生活に直接触れ、同年代の中学生との交流を通して得た学びや気づき、友情が、一人ひとりの感想文から伝わってきます。

この経験が、将来、隣国の仲間として互いを理解し尊重し合う心を育み、広い視野を持って国際社会で活躍する人へと成長するきっかけとなることを期待しています。

目次	ページ
派遣団の主な日程	2
「素敵な4日間で学んだこと」 東城陽中学校 3年 厚海 愉奈	3
「韓国での大切な思い出」 西城陽中学校 2年 茨木 柚花	5
「2025年度中学生韓国派遣団に参加して」 城陽中学校 2年 岡 睦月	7
「言葉を越えたつながりを感じて」 南城陽中学校 1年 川上 来穂	9
「韓国派遣に参加して」 東城陽中学校 2年 小松 琉愛	11
「慶山で出会った大切な友達」 東城陽中学校 2年 是澤 聖菜	13
「慶山市派遣団報告書」 東城陽中学校 1年 坂根 風音	15
「韓国との国際交流を通して」 奈良女子大学附属中等教育学校 2年 清水 和花	17
「国境を超えた優しさ」 城陽中学校 2年 谷出 ほのか	19
「韓国派遣感想文」 東城陽中学校 2年 中本 琉禾	21
「短かった4日間」 城陽中学校 2年 樋口 百香	23
「中学生韓国派遣に参加して学んだ事」 城陽中学校 2年 松井 杏詩	25
※学年は2025年度のものです	
あとがき	
派遣団団長・城陽市国際交流協会会長	森澤 博光 30
引率・協会職員	大久保 雅由・蓮佛 明子

2025 年度派遣団の主な日程

2026年3月24日(火)

咸陽市役所を 7 時 00 分に出発
 関西国際空港から釜山金海空港へ
 バスで慶山市へ移動
 林堂遺跡展示館見学
 慶山市長・慶山市議会表敬訪問
 歓迎晩餐会
 ホテル泊

3月25日(水)

シンサン
新上中学校訪問
慶山産業団地複合文化センター
(文化体験 / 学生同士の交流)
夕食会 (COZY HOUSE)
ホテル泊

3月26日(木)

KTXでソウルへ移動
ミョンドン
明洞散策
トンデモン
東大門デザインプラザ見学
Nソウルタワー
ホテル泊

3月27日(金)

景福宮（韓服体験）
仁寺洞散策
仁川空港から関西国際空港へ
城陽市役所に23時30分帰着



キョンサン
慶山市議会前で記念撮影



大韓民國





「素敵な4日間で学んだこと」

東城陽中学校3年 ^{あつみ}厚海 ^{ゆな}愉奈

私は今回の中学生韓国派遣に参加できて本当に良かったと思います。この韓国派遣の話聞いたとき、私は「行ってみたいな」と思いました。両親に話をしたら、「いいやん。行き。」と言ってくれて行くことにしました。

1日目は城陽市から慶山市に移動しました。初めての外国だったので、たくさんの不安なことがありました。検査に引っかからないか、不安でした。そして、移動中のバスでは誰ともあまり話さなかったのも、仲良くなれるかも不安でした。



慶山市に着いたあとはイムダン遺跡に行きました。今の慶山市に位置するアブドク国に住んでいた人の暮らしや生死について学ぶことが出来ました。そのあとに慶山市役所を訪問しました。建物の中ではたくさんの人が私たちを待っていて、入った瞬間盛大に迎えてくれました。最初に副市長、次に議長を訪問して、慶山についてのお話をたくさん聞くことが出来ました。また、議会の見学もすることができました。今まで議会を見る機会はなかったため、新鮮な体験になりました。

夜ご飯にとってもおいしいプルコギを食べました。その時に話したことのない子とたくさん話して、仲良くなることが出来ました。また、慶山市役所の人も話しかけてくれました。その方々は、昨年、東城陽中学校に慶山市の学生と来た方たち

で、私のことを覚えてくれていた方もいました。その方々が「本当に韓国語が上手だね。韓国語がもっと上手になったね。」と言ってくれたのがとてもうれしかったです。

2日目は新上中学校^{シンサン}に行き、中学生と交流をし



ました。たくさんの生徒が私たちを拍手で盛大に迎えてくれました。ペアの子が日本をとても好きで、日本語をたくさん話してくれました。韓国の学生と日本のアニメやK-POP、ドラマの話などそれぞれの好きなものの話をたくさんしました。学校ではコチュジャン作りをしたり、一緒に給食を食べたりしました。そのあとに城陽公園というところに行きました。そして、慶山複合文化センターというところに行きました。そこにはカラオケやゲームセンター、カフェ、自習室などがあり、いろんな人が使える施設でした。夜ご飯は韓国の子どもたちと一緒に食べました。私はその時の別れの挨拶を担当しましたが、ガイドの方や韓国の学生などに「発音が上手だね。何でそんなにしゃべれるの」と言ってもらいとても嬉しかったです。その後、韓国の学生と最後の挨拶をかわしてホテルに帰りました。夜にみんなで集まり、韓国の子どもたちがくれたお菓子やコンビニで買った食べ物などでお菓子パーティーをしました。その時間でみんなとの距離がぐっと縮まり、とても仲良くなること

が出来ました。夜遅くまで学校の話や韓国のペアの子の話などでとても盛り上がりました。

3日目は慶山からソウルへ移動しました。

明洞^{ミョンドン}でお昼ごはんを食べて観光をしました。時間は1時間と短かったですが、明洞で行きたいお店を回ることが出来て、とても楽しかったです。そのあとに東大門^{トンデモン}に行きました。東大門デザインプラザは不思議な形をしていてとても面白かったです。また、ソウルタワーにも行きました。ロープウェイに乗り、ソウルタワーに上りました。そこから見た景色は言葉では表せないほどきれいでした。日本で見る夜景とは少し違う夜景でした。

最終日は韓服を着て、景福宮^{キョンボックン}に行きました。韓服は綺麗なレースなどがついた韓国の伝統的な服です。たくさんの種類があり、どう組み合わせるかとても悩みました。景福宮には韓服を着た人がたくさんいてとてもきれいでした。仁寺洞^{インサドン}では韓国特有の屋台のものも食べました。帰りが近づくにつれてどんどん悲しくなってきました。あと一週間はいたいと思ったくらいです。

今回の韓国派遣を通して、実際に韓国に行かな

いとわからない文化や価値観の違いを学ぶことが出来ました。韓国アイドルやドラマを通して知っていた韓国とは違う点も同じ点もありました。韓国で会った人達はみんな日本語が上手でとても嬉しかったです。韓国の中学生との交流では、同じ学生として共通する部分も多く、親近感を持つことが出来ました。生活習慣や考え方には違いがあり、とても興味深く、日本との違いを実感しました。

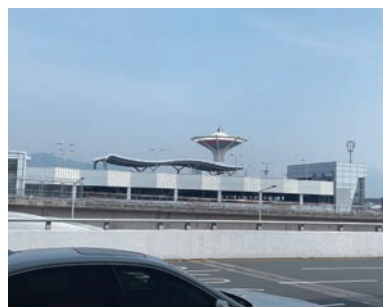
この経験を通して、外国に対する興味がさらに深まり、もっとたくさんの国について知りたいと思うようになりました。今回学んだことや感じたことを今後の学校生活や将来に活かしていきたいです。そして、機会があればまた韓国に行って、さらに多くのことを学びたいと思います。

最後に森澤会長、大久保さん、蓮佛さん、そして両親、貴重な体験をありがとうございました。参加したみんなと一生忘れられない思い出ができました。4日間とても楽しかったです。本当にありがとうございました！！

フサンキメ
城陽市役所～釜山金海空港～慶山市へ



城陽市役所に集合



金海空港から慶山市へ



関西空港第2ターミナルから出国





「韓国での大切な思い出」

西城陽中学校 2 年 ^{いばらき} 茨木 ^{ゆずか} 柚花

私は今回、韓国派遣に参加しました。同じ学校からは一人での参加だったので、最初は仲良くなれるかなど不安がありました。また、親と離れて海外に行くことが初めてだったので、ちゃんとやれるか心配でしたが、楽しみやワクワクの気持ちのほうが大きく、出発しました。

一日目はバスの移動がありました。友達と話したり、写真を撮ったりする移動も楽しく、四日間の旅行がとても楽しみになりました。そして飛行機に乗りました。離陸の時はスピードが上がり、体に圧がかかったり耳が詰まったりしてびっくりしましたが、空から見た景色はとても綺麗でした。韓国に着いてから慶山市副市長からのあいさつや議会への訪問がありました。そのなかで、韓国語で自己紹介をする場面があり、とても緊張しましたが、バスの中で一生懸命韓国語の自己紹介を覚えて、それを伝えることができました。拍手された時はとてもうれしかったです。イムダン遺跡の展示館では、昔の人のお墓について学び、岩でできたお墓は偉い人、木でできたお墓は貧しい身分の人の墓だと説明を聞き、初めて知ることばかりで勉強になりました。ホテルでは友達が「部屋に来ていいよ」と言ってくれたので、みんなでお菓子を食べたりして過ごした時間がとても楽しかったです。

二日目は新上中学校を訪問しました。学校の給食を食べ、日本との違いにびっくりしました。特に、韓国ではお椀などを持って食べてはいけなとか、給食のメニューも辛いものばかりで「辛い？」と聞くと、「ちょっと辛いけど我慢して食べています！」と言われて、『ちょっと！？』と驚きました。デザートにオレオのケーキみたいなスイーツがでてきて、とてもおいしかったです！その後の韓国の茶道体験では、お茶を三回に分けて飲むことや70%くらいにそそぐこと、座

るときの男の人と女の人の手の置き方の違いなどを知ることができました。そして、現地の中学生との交流がありました。最初はとても緊張して言葉が通じるか不安でしたが、一緒にゲームセンターで遊んだり写真を撮ったり、カラオケや公園を一緒に回っていくことで、最初の不安は忘れるぐらいに仲良くなりました。最後の夕食では、好きな人と隣同士で座ることができ、最高のメンバーになりました。そして、出会ったきっかけとしてお菓子や、名札をあげている人もいました。名札をあげる意味は『出会いの月の印』という意味らしく、とてもロマンチックだな～と思いました。韓国の友達ができたことはとてもうれしくて、大切な思い出になりました。別れの時には涙が出るぐらいに寂しくなり、それだけ楽しい時間だったのだなと思いました。帰ってからも連絡を取り合っていて、この出会いはとても大切なものになりました。また、今回の旅行では、同じ学校だけでなくほかの学校の人とも仲良くなることができたこともとても嬉しかったです。



三日目はKTXに乗り、ソウルへ移動しました。石焼ビビンバを食べたり、明洞や東大門デザインプラザを見学しました。買い物では、自分でお金を管理しながら買い物をすることが初めてだったので、とてもたのしかったです。お店の人が値段

を安くしてくれることもあり、優しさを感じました。お土産を選ぶ時間も楽しくて、友達と一緒にたくさんの店を回れて楽しかったです。夜にはロープウェイに乗ってソウルタワーに行き、夜景を見ました。その景色がとても綺麗でした！しかし、この日はメンバーが骨折してしまうというハプニングがあり、とても心配になりました。また自分もPM2.5を吸ってしまったせいか、頭が痛くなり、夕食のサムギョプサルをあまり食べることができませんでした。でも友達が薬をくれて、飲んだら回復して体調がよくなりました。



金海空港で韓国到着後はじめての食事

四日目は景福宮で韓服体験をしました。私は白色のチョゴリキョンボッキン *裏表紙上段中右側を選びました。普段着ることのない服を着ることができて、とても楽しかったです。私は韓国ドラマをよく観るので、景福宮や韓服はドラマの世界のようでとても感動しました。王様と王妃様が別々で暮らせるところなどもきれいに再現されていました。インサドン 仁寺洞も見学し、そこでもお土産をたくさん買いました。かわいいお店がたくさんあったり屋台も出ていたりして、韓国の街の雰囲気を感ずることができました。それらも韓国ドラマで見る世界で面白かったで

す。帰りの飛行機では、最初は外が曇っていてよく見えませんでした。途中から夜景（絶景）を見ることができました。飛行機が高く昇っていくにつれて、韓国の地形がはっきりとわかって面白かったです。最後まで思い出に残る景色でした。

そして、日本に着いて、「日本の空気最高ー！」、「日本の運転は荒くないね～」とみんな言っていて、韓国の良さも知れましたが、日本の良さも新たに気付くことができました。最後に関空から帰る途中で夜食を食べました。久しぶりに日本で食べる料理がおいしかったです。

今回の旅行を通して、言葉がうまく通じなくても笑顔や行動で一生懸命伝えたと、気持ちは通じ合えるということを学びました。この韓国での経験はとても楽しく、自分にとって大切で最高の思い出になりました。また、韓国でできた友達や日本でできた新しい友達とのつながりも、これから大切にしていきたいです。そしてまた、必ず韓国に行って友達に会いたいと思いました。

私は、韓国で過ごした4日間で”笑顔でいること””感謝の気持ちを言葉で伝えること””あいさつを自分から進んですること”これは国が違っても気持ちが伝わる一番のコミュニケーションであることを学びました。韓国に行く前は主にものや文化を学びたいと思っていましたが、韓国の方たちの優しさや、温かさにも気づくことができ、将来韓国に行ってダンスを学びたいという気持ちが高まりました。そのためにも韓国語を本格的に学びたい気持ちでいっぱいです。

城陽市国際交流協会の方々、一緒にいったみんな、韓国でお世話になった優しく接してくださった方々、本当にありがとうございました。



キョンサン 慶山市役所



デジタルのウェルカムボードで歓迎



↑ 4階建ての市役所
市役所の奥にある議会⇒





「2025 年度中学生韓国派遣団に参加して」

城陽中学校 2 年 ^{おか} 岡 ^{むつき} 睦月

私が中学生韓国派遣団に参加しようと思ったきっかけは、K-POP アイドルのファンだったからです。それがきっかけで韓国の食べ物や文化に興味を持ちました。また、韓国の中学生はどんな雰囲気なのか、日本の中学生と比べてどのような違いがあるのかを知り、できれば仲良くなりたいと思ったからです。^{キョンサン}慶山市と姉妹都市としてのつながりを深めるという目的も理解し、今回の取り組みに参加しました。



今回の派遣では、一日目に慶山市役所や市議会、イムダン遺跡展示館を訪れました。二日目は新上^{シンサン}中学校に行き、現地の中学生と交流しました。三日目はソウルに電車で移動し、明洞^{ミョンドン}で買い物をしました。四日目は韓服を着せてもらい景福宮^{キョンボクン}に行きました。

今回の派遣で印象に残っているのは次の二つのことです。

一つ目は、韓国の中学校で中学生と交流したことです。私たちがバスで学校の前に到着し門を抜けると、たくさんの生徒さんが私たちのために花道を作って、拍手で出迎えてくれてとても驚きました。「こんにちわ！」と日本語で声をかけてくれる人もいて、歓迎されているという実感が湧きました。その後、全校生徒が集まる体育館に行きました。私は挨拶をする役割があったのですが、

予想以上に生徒の人数が多くて圧倒されました。話すときもとても緊張していたのですが、「アニョハセヨ」と言うだけでたくさんの人が「おおー！」と反応してくれたので安心して話すことができました。その後、韓国の中学生と一緒に韓国の伝統の茶道を体験したり、カラオケやゲームセンターで一緒に遊んだりして、より親しくなることができました。夕飯を食べ終えた頃にはお互いにすっかり打ち解けて、お別れするのがすごく寂しく感じました。

日本の学校と違うなと感じたのは、食べ物に関する考え方です。日本の学校では、自分たちで配膳と片付けをやり、給食は残さない方が良いと言う考え方が浸透していますが、今回訪れた韓国の中学校では、準備・片付けは全て大人がやっていて、給食は残しても問題ないという感じで、むしろ当たり前のように残している人がたくさんいました。そもそも、盛られる量自体、時間内に食べることが難しいレベルで多めに盛ってありました。たくさん食べる人に合わせて盛られているのかなと思いました。また、日本は教室で給食を食べるけれど、韓国では校内に食堂があり、生徒はそこで並んで食事を受け取るというスタイルだったので、日本の給食との違いを感じました。そして、学校のルールは日本より少し緩めな感じがしました。スマホを学校に持参することが許されており、制服の着こなしの自由度も高いと感じたからです。また、全体的に女子は長い髪をおろしている人が多いと思いました。そして、歓迎のためにバンド部が演奏をしてくれたり、ダンス部がダンスを披露してくれたりしました。城陽中学校にはバンド部もダンス部もないので驚きました。今回は中学校での交流が一日しかなかったのですが、もっと長い時間を一緒に過ごしてもっと交流したいと思いました。

二つ目に印象的だった体験は、ソウルに移動して明洞や仁寺洞などの有名な観光地に行ったり、そこで買い物をしたりしたことです。有名な観光地ということもあって、色んな国の人が行きかい、その点は日本の観光地と似ていると思いました。あるお店では「韓国人にいい印象を持って欲しいから」とかなりまけてくれる方もいて嬉しかったです。



シンサン
新上中学生とコチュジャン作り体験

三日目に明洞で食べたサムギョプサルと、四日目に仁寺洞で食べたタッカンマリは、食べたことがない人に絶対勧めたいくらい美味しくて感動しました。ぜひもう一度食べたいです。

ソウルで一番印象に残っているのは、ソウルタワーからの夜景です。今までに見たこともないようなきれいな夜景で感動しました。

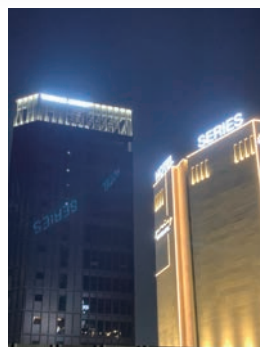
今回の派遣で唯一後悔していることは、「もっと事前に韓国語を勉強しておけば良かった」ということです。中学生との交流でも観光地での買い物でも、人と関わる機会は多くありましたが、あいさつ程度の韓国語しか話せなかったのが、スムーズにコミュニケーションをとることが困難でした。翻訳のアプリを使うと大まかな内容は伝えられても、細かなニュアンスを完璧に翻訳できませんでした。韓国の友達もできたので、もっと韓国語を勉強して、次に韓国を訪れた時に自分の韓国語が伝わるかどうか試したいです。

憧れの K-POP アイドルの国に今回行くことができ、ますます韓国が好きになり、もっと知りたいと思いました。

今までは YouTube の動画などでしか知らなかった韓国でしたが、実際に自分の目で見て、体験することの重要性を感じました。スマホで撮ったソウルタワーの写真を家族に見せましたが、肉眼で見た景色の美しさを完璧に伝えることはできないと感じました。

慶山市との関係も、姉妹都市であるという事実だけではなく、直接会って交流することで人と人との繋がりができて、その個人の繋がりが継続されることでこそ、実質的な関係になると言えるのではないのでしょうか。

PIED ホテル



<3月24日・25日の宿泊先>
慶山市の隣、大邱広域市の寿城アルファシティという産業団地にある比較的新しいホテルです。ホテルの横には東屋や遊歩道に桜並木もあります。





「言葉を超えたつながりを感じて」

かわかみ れおん
南城陽中学校 1 年 川上 来穂

私は今回、4 日間の中学生韓国派遣団に参加しました。これまで海外を訪れた経験は何度かありましたが、観光中心であったため、文化や歴史について深く学ぶ機会はほとんどありませんでした。私は二重国籍で韓国語も得意であるため、今回の留学は単なる海外体験ではなく、自分のルーツやアイデンティティについて考える貴重な機会でもありました。二つの文化に関わる立場として、それぞれの違いや共通点を実際に体験しながら学びたいという思いを胸に、今回の派遣団に参加しました。

一日目は、^{イムダン}林堂遺跡展示館にまず行きました。林堂遺跡展示館は去年できたとてもきれいな展示館でした。そこでは当たり前ですが、林堂遺跡について学びました。すごく短い時間でしたが、林堂遺跡について多くのことを学びました。個人的に歴史が好きなので面白い体験でした。

その後に、^{キョンサン}慶山市役所に行きました。慶山市役所に行ったとき記者の方が多く来ると聞いたのでとても緊張していましたが、実際行ってみるとそんなに緊張することはなかったです。副市長と議長も穏やかで、すごくいい人でした。夜にはプルコギを食べました。最初はすごく多くのプルコギで驚きましたが、実際に炒めるとかさも減り、すごくおいしかったので食べることができました。

二日目は、主に^{シンサン}新上中学校の中学生との交流でした。この時は一日目に市役所へ行った時より緊張して、前で話すときもがちがちでしたが、中学校のみんなが優しくてすごく面白い交流になりました。学校内ではコチュジャン作りをして給食を食べました。日本でもコチュジャンはあるけど、「メジュ」というもので作るなど、詳しいところまで学ぶことができました。「メジュ」一つでいろんなものに使えることに驚きました。コチュ

ジャン作りが終わった後、韓国の給食を食べました。給食文化も日本の中学と違っていて驚きました。例えば、日本ではあまりない給食室でご飯を食べたり、みんなで手を合わせず個人で食べるなどの違いがありました。韓国の給食はとても美味しかったです。



給食を食べた後学校を出て、韓国の茶道について学びました。正直、日本の茶道も詳しくはないですが、韓国の茶道は日本と似ているようで違いが多かったです。でも近くの国だからか、日本と韓国の茶道のイメージは似ているところもあると感じました。

三日目は、あまり楽しむことができませんでした。なぜならバスから降りる時に足を踏み外して怪我してしまったからです。最初は捻挫かなと思っていましたが、KTX（韓国の新幹線）でソウルに行って昼ご飯を食べても痛かったら病院に行くことになりました。ソウルに着くころには痛みがおさまるだろうと思いましたが到着してもまだおさまらず、病院に行ったら「ひび」が入っていると言われました。それで、三日目はあんまり楽しめず終わりました。ちなみに昼ご飯は、石焼ビビンバでした。石焼ビビンバは、言うまでもなく美味しくてとても熱かったです。

四日目は、足は不自由だけど松葉杖があったので予定通り進めました。ホテルのチェックアウト

をした後、最初に景福宮という朝鮮王朝の正宮に行きました。景福宮は松葉杖ではきつかったのですが、申し訳なかったですが、先生に車椅子を押してもらいました。だから一緒に来た人とは違うルートで景福宮を楽しむことができました。



仁寺洞の壁画の前で

景福宮を出た後、昼ごはんはタッカンマリを食べました。タッカンマリは、鶏を丸ごと、またはぶつ切りにして、じゃがいもやネギ、餅（トッポギ）と共に、ニンニクの効いたスープで煮込んだものを特製のたれにつけて食べるものです。鶏肉を食べ終わった後はカルグクスという韓国の麺を入れて食べました。これはとってもおいしかったです。

この四日間、韓国に対しての考えを深めることができました。元々二重国籍で韓国と近かったですが、今回の韓国派遣でよりいろんな考え方ができたすごくいい機会でした。今回の経験を生活でも生かしたいです。貴重な機会を作っていただきありがとうございました

イムダン遺跡展示館

2025 年 5 月 に開館

2000 年前の慶山市にあった押督國の人々の生活を見ることができる、国内唯一の複合的な遺跡展示館です。



特大のデジタル掲示板



マスコットがエントランスでお出迎え

この展示館は、様々な角度から古代慶山市にあった押督國の人々の生活を鮮やかに表現しています。展示にはイムダン地域の大規模な古墳群と土城から発掘された金の冠、銀のベルト、様々な動物や人の骨など 28,000 点が含まれています。実物大の墓のレプリカや彼らの生活様式と文化を強調するコレクションも展示されています。

参考資料 creatrip



古代人の顔にシミュレーションできます。





「韓国派遣に参加して」

東城陽中学校 2 年 こまつ 小松 るあ 琉愛

私が韓国派遣に参加した理由は、2つあります。1つ目は去年の8月の交流会に参加し、そこで韓国の学生と交流をして私もいつか韓国を訪れてみたいと思ったからです。2つ目の理由は、私は幼い頃からいこの影響で、韓国の食べ物や韓流アイドルが好きだったからです。そして去年、この韓国派遣の募集があると知り「絶対に参加したい!」と思いました。また、今は学校でも韓国や国際交流についての授業を受けることがあります。しかし、日本で受ける授業だけでは分からない国際交流を自ら体験して、韓国という国を知りたいと思い、今回の韓国派遣に応募しました。

当日、少しの不安とたくさんのわくわくと一緒に韓国に向かいました。1日目は、慶山市キョンサンの市役所を訪問しました。表敬訪問の際には副市長よりご挨拶と歓迎の言葉がありました。副市長のご挨拶の後、派遣団を代表して私が韓国語で挨拶をさせていただきました。議員さんがたくさんいた中での挨拶はとても緊張しましたが、温かく迎え入れてくださりとても嬉しかったし安心しました。



キョンサン
慶山市の取材場面

市役所の訪問が終わってから慶山市の YouTube のインタビューに応じる機会がありました。ここでは、慶山市を訪れてみての感想やこれから楽しみにしているプログラムなどの質問があり、事前に知らされていない質問もあったけれど、冷静に

落ち着いて受け答えすることができました。

1日目の夜ご飯はプルコギでした。席についてプルコギが出されると、私が日本で食べているプルコギとは全く違ったビジュアルでとても驚きました。それに、プルコギはフライパンなどで炒めて調理するものと思っていたのに煮込んでいて本当に衝撃でした。また、味もいつも日本で食べている濃い味ではなくて逆にあっさりしていて食べやすく、一瞬でプルコギの虜になりました。



2025 年来城した中学生と交流が続いています

食事が終わりホテルに帰ると、すぐにホテルの前のコンビニに行こうという話になりました。韓国のコンビニは日本とどんな違いがあるのだろうと、ワクワクしながらお店に入りました。韓国のコンビニは、日本と違ってこじんまりした、日本でいう駄菓子屋さんのような空間で、レジも1つで店員さんも1人で営業していました。コンビニで私は、日本でも有名でずっと食べてみたかった「ビヨット」というヨーグルトと「バナナウユ」という商品を購入し、ホテルに戻りました。部屋に戻ると去年の交流会で仲良くなった友達から「今から遊びに行くね!」と連絡があり、久しぶりに会うことができました。同じ部屋の子も約束をしていたので、4人で日本と韓国の最近の流行について話したり、お菓子を交換したりしてとても楽しい時間を過ごすことができました。

2日目は朝早くからバスに乗って、^{シンサン}新上中学校に行きました。中学校に到着すると、生徒のみんながワイワイした雰囲気で大に迎え入れてくれて嬉しかった半面、とても注目されて、少し恥ずかしかったです。そこから体育館に移動し、歓迎式を行いました。式では、ダンス部とバンド部の出し物もあり、日本とは全然違う歓迎式で新鮮で面白かったです。中学校では、韓国の生徒と2人でペアになってプログラムを進めていくのですが、ペアになった女の子と好きなアイドルが同じで、すぐに打ち解けて仲良くなれてとても嬉しかったです。また、去年日本での交流会に来ていた友達もいて、SNSでもずっとやりとりをしていたので久しぶりに話ができてとても楽しかったです。そして、プログラムの中には「コチュジャン作り体験」というものがあり、普段の旅行などではあまりできない貴重な体験をさせていただきました。そこには地域のローカルテレビが取材に来ていて、派遣団を代表して私と日本の交流会にも来ていた友達がインタビューを受けました。そのインタビューではすべて韓国語での会話ですがごく緊張したけれど、インタビュアーの方がサポートしてくださり、言いたかったことをしっかり伝えることができとてもいい経験になりました。

3日目はKTXに乗ってソウル駅まで移動し、^{トンデモン}東大門デザインプラザや^{ミヨンドン}明洞辺りを散策して、展示物を見たり買い物をしたりして楽しみました。夜はロープウェイに乗って、ソウルタワーに上りました。ロープウェイに乗るのは初めてで少し怖かったけれど、それを忘れるくらい、ガラス越しのソウルの夜景はキラキラしていて絶景でした。

夢のような楽しい時間は一瞬で過ぎ去ってしま

い、気がつけば最終日になっていました。4日目はずっと着てみたかった韓服を着て^{キョンボックン}景福宮に行きました。伝統の衣装を着ながら朝鮮王朝時代の歴史を知ることができ、まるで自分がタイムリープしたかのような気持ちになってとても面白かったです。景福宮を後にして、^{インサドン}仁寺洞の見学をしました。そこでは2時間ほど自由時間が与えられて、キーホルダーを買ったり、友達と「インセンネッコ」という韓国のプリクラを撮ったりしてたくさん思い出をつくれました。

最後の韓国での食事はタッカンマリでした。個人的に韓国で食べたものの中で一番好みの味で美味しかったです。特に、トッポギがモチモチしていて美味しくて、韓国語で店員さんに「トッポギ追加してほしいです!」と伝えることもできました。

この4日間本当に楽しくて、もう帰国するのかと考えると、とても悲しい気持ちになりました。スーツケースの中は、中学生たちから貰った記念品やお菓子がいっぱい入りきらなくて、リュックもパンパンにして帰国しました。

今回いろんな人たちのサポートのもと韓国派遣に参加させていただき、同世代の韓国の人との交流や、テレビやYouTubeのインタビューなど、普段ではできない貴重な経験がたくさんできて感謝しています。また、私は将来国際的に活躍できる仕事に携われたらいいなと考えています。今回の体験を、将来の自分に生かせるような考え方をし、将来の進路選択にも役立てていきたいです。そして、引率してくださった森澤団長、大久保さん、蓮佛さん、一生の記憶に残る素晴らしい思い出を作ることができました。本当にありがとうございました。

韓国の給食

^{キョンサン}

慶山市の中学校では給食を、教室ではなく給食室で食べます。一人ずつトレイを持ち一列に並び、係りの方に配ってもらいます。品数もとても豊富で、フルーツやデザートもあります。この日のメイン料理は、ビビンバと菊菜のみそ汁。副菜にキムチもありました。コチュジャンを使ったものはとても辛いです。





「慶山で出会った大切な友達」

東城陽中学校2年 これさわ 是澤 せいな 聖菜

前の日の結団式、まだ実感がわからないまま、市長と挨拶をして韓国に行く目的を改めて確認した。三月二十四日の六時四十五分、慣れないスーツケースを持ってドキドキしながら関西国際空港に向かい、初めて乗る飛行機ではこの後の四日間の楽しみに期待を膨らませながら韓国へ向かった。韓国では周りがハングルの文字ばかりでとても新鮮だった。市役所でたくさんの方々から温かい拍手で迎えてもらい、韓国の人の温かさを知れた。市役所でも市議会でも心から城陽市の人達を迎え入れてくれて、これまでに派遣された中学生の交流がどれだけ素晴らしく、良いものだったのかを実感した。夜ご飯に焼き肉をみんなで食べ、食を通して話をしたことがない人と仲良くなれてホテルに行く時にはみんな最初より雰囲気が良くなっていた。



二日目、今回の旅の主な目的は慶山の中学生との交流で、最初はワクワクと緊張でいっぱいだった。私たちの姿が見えた瞬間に、全校生徒がたくさんの歓声と拍手で迎えてくれて緊張がスッと無くなった。ペアの子と体育館で初めて話して、年齢が近いという親近感もあったが、どうしても言語の壁で仲良くなるのに少し時間がかかってしまった。ダンス部とバンド部の発表が始まると、日本では珍しい部活ということもあって、同

じ中学生と思えないほどの圧巻のパフォーマンスを見る事が出来た。その後のコチュジャン作りで初めて共同作業をして、お互いに緊張が和らぎ、素を出せるようになった。給食では日本と違う形で配膳をし、メニューも全然違ったため一番日本との文化の違いを実感することができた。食べ終わった後も、他の学生とも話をして少し交流することができて本当にいい経験になった。ずっと続いて欲しいなと思うくらい、心地よい空間にくれた韓国の生徒達には本当に感謝している。みんなで行った公園も城陽と慶山が仲の良いことが目に見えるように感じて嬉しかった。そして韓国の学生との距離も縮まり、たくさん話せたのは複合文化センターでの自由時間だ。ゲームをするのももちろん楽しかったが、それよりもみんなで円になって話している時間がなによりも印象に残っている。韓国の文化や日本の文化について話したり、日常の話などコミュニケーションを楽しんだのが一番の思い出だ。最初の緊張と不安が嘘のように消えて出会って一日目とは思えないくらい仲が深まったのがとても良かった。その後の夜ご飯でもより一層仲が深まり、今でも連絡を取り合い自由時間で話しきれなかったことや、お互いに日本語と韓国語を教えあうなど大切な友達が出来たし、とても意味のある交流会にすることができたと思う。

この旅で感じた事は大きく分けて三つ。

一つ目が「韓国と日本の近さ」だ。韓国のコンビニでも日本のお菓子が売られており、逆に日本でも韓国のお菓子が売られていて、とても身近に感じることも多々あった。このことから海外とはいえ韓国とはなんだか似ていて近いということが分かった。

二つ目は、「コミュニケーションの楽しさ」だ。普段、日本語でしか会話をすることがない私に

とって英語でもない韓国語を聞き頑張って話すということは新鮮で難しいことも多かったが、今までは感じる事が無かった外国語を話す楽しさを感じる事が出来た。このような経験をする事によって、外国語を学ぶ大切さや楽しさを感じる事が出来て、今まで少し内気で考えもしなかった留学に少し興味を持った。この経験は今後の進路を考える上でも大切な意味を持ち、これからの私の人生を変える大きな出来事になるのではと考えている。

三つ目は、「食の大切さ」だ。これは少し話が変わるかもしれないが、日本のみんなと仲良くなったのも韓国の生徒と仲良くなったのも、どちらもきっかけが「食」だったことから、同じ料理を食べて味わい、食べ物を囲んで話をするという環境では自然と心が開き、一気に仲が深まるのではないかと思った。この三つのことはこれからの人生に生かせる経験であり、この三泊四日はとても

意味のある貴重な濃い三泊四日だったと振り返ることができた。また韓国と日本の交流会などがあればもっと積極的に参加していきたいと思った。改めて私はこの旅に参加してたくさんの友達と貴重な経験を積めて本当に良かったと思っている。一緒に三泊四日を過ごしてくれた十二人と引率者の方々やお世話をしてくれた韓国の方、そして家族に感謝している。



キョンサン 慶山市議会訪問での挨拶

城陽公園

キョンサン 慶山市は、城陽市と1991年1月22日姉妹盟約を締結した都市であり、城陽公園は姉妹都市盟約締結20周年を記念して2011年に着工し、2012年8月10日に竣工した公園です。城陽市からは、市の木「梅の木」と日本の木「桜の木」が寄贈されています。



まだこの時は、両市の中学生どちらもよそよそしい感じに見えます。





「慶山市派遣団報告書」

東城陽中学校 1 年 さかね かのん
坂根 風音

3月24日早朝、私は^{キョンサン}慶山市派遣団の一員として、城陽市のバスで市役所から関西空港へ出発しました。

国際交流の輪を広げ世界平和へとつなげられるように、少しでも貢献したいという思いと同時に、久々の韓国旅行を思いっきり楽しみたいという思いもありました。関西空港で円からウォンへ引き換え、飛行機で韓国の空港へ到着したあと、バスに乗り慶山市へと向かいました。

慶山市へ着き、私たちは遺跡展示館を見学しました。慶山市は古代、^{アプドクコク}押督国という国の一部に属していたらしく、押督国ならではの思想もありました。押督国は身分によって墓の造りなどを変えていて、一般人なら木造、その国で偉大な存在だった人々は石造りと、墓に使う素材を変えていました。鳥をあの世とこの世を繋ぐ生物だと考え、木は天と地を繋ぐものだという思想があったそうです。この話を聞いたとき、慶山市の歴史にはロマンがあふれているなと感じました。

展示館では、最新の科学技術によって、押督国があった時代に作られた墓から出た骨を使い、どんな顔だったのかを知ることができます。自分に一番似ている顔がわかる機械を使ってみました。どうやら私はあまり似ていないようで、似ているパーセンテージが30%台でした。押督国の暮らしも映像などから知ることができました。

歴史を楽しく学んだあと、私たちは慶山市の市役所へ向かいました。市役所に着いたとき、大勢の人から歓迎され、とても嬉しい気持ちもありましたが、少し恥ずかしいという気持ちもありました。歓迎会では慶山市の副市長と会うことができ、とても光栄に思いました。その後、慶山市議会についての動画を観ましたが、慶山市議会は様々な分野に分かれていて、慶山市をよりよくするために励んでいることを知りました。私はこの動画を

見て、慶山市はすごいなと感じました。

議会で使われる部屋を見学しましたが、部屋はとても広く迫力もありました。ここで慶山市を明るくするために議会が行われていると考え、とてもすごいなと感じました。



慶山市長表敬訪問

私たちは市役所の人たちと一緒に、夜ご飯にブルコギ店を訪れました。悲しいことに、私は事情がありブルコギが食べられず、代わりにご飯や自分で用意してきたパンを食べるだけでしたが、仲間たちと一緒にしゃべりする時間も多く、とても楽しい時間を過ごせました。その後、私たちは店からの夜景の写真を撮り、ホテルへ向かい、1日目を終えることができました。

韓国派遣2日目、私たちはバスでホテルから^{シンサン}新上中学校へ向かいました。中学校へ着き校門を通ったとき、城陽市の中学校とは比にならないくらい数の学生たちが私たちを出迎えてくれました。市役所で歓迎されたときと同じようなものを感じましたが、それでもこれだけ私たちを歓迎してくれる嬉しさがありました。

体育館で自分のパートナーと初めて合流したとき、最初は仲良くできるか心配しましたが、お互い自己紹介し、絵を描くのが好きという共通点があったことや、パートナーが英語を理解できることからすぐに仲良くなることができました。プレゼント交換をしたり、新上中学校について動画で

知ったりすることができました。中学校のバンドチームやダンス部の公演を見たとき、とても迫力があり素晴らしかったです。



新上中学生とコチュジャン作り体験

歓迎会が終わり、私たちはコチュジャン手作り体験をしました。コチュジャンの材料を混ぜるとき、思ったよりも力が必要で大変でしたが、達成感がありとても楽しかったです。昼食は新上中学校の給食を食べることになりました。給食を食べはじめようとしたとき、生徒たちがスプーンを使って白米を食べていることを知り、箸を使わないことに少し驚きました。

給食を食べたあと、私たちは城陽公園へ行きました。城陽公園は慶山市と城陽市の姉妹都市締結

20周年記念で作られた公園で、おおきな池がありました。公園でゆっくりしたあと、慶山産業団地複合文化センターへ行き、韓国の伝統的なお茶を飲みました。お茶は後味が爽やかで、まるで広い草原の中にいるような気分になりました。韓国では昔からこんなにおいしいものが作られているのだなと思いながら、韓国の食文化を楽しむことができました。

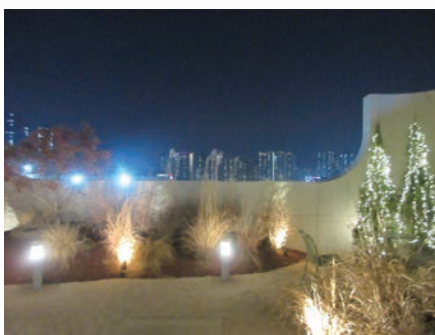
施設内の図書館やゲームセンター、カラオケで友達との仲を深めることもできました。夜ご飯を食べ、パートナーとお別れする時間になったとき、私はとても悲しい気分でいっぱいでしたが、またどこかで会えると信じ、少し気持ちを軽くすることができました。

3日目と4日目はソウル市内を観光しました。様々なお買い物や写真を撮ることができたので、とても楽しかったです。

韓国派遣を通して、私は韓国の文化の良さに触れることができ、直接相手と会って交流を深めることができました。

この経験を今後の人生で少しでも活かせるようにしたいです。

歓迎晩餐会



雰囲気の良いレストランでブルコギ定食をいただきました。
お肉の量に驚き 🤩





「韓国との国際交流を通して」

奈良女子大学附属中等教育学校2年 しみず 清水 わか 和花

私は韓国^{キョンサン}慶山市との国際交流を通して初めて経験できたことがたくさんあります。今回初めて韓国に行きましたが、本当に大切な思い出や友達が増えて、韓国に行けて本当に良かった、また行きたいといえるような国際交流でした。

当日の朝、私は韓国語をちゃんと話せないのに韓国に行っても大丈夫だろうか、みんなと仲良くなれるかなという不安な気持ちでいっぱいでした。しかしそんな気持ちとは裏腹に、行きのバスでは慶山市役所や新上中学校を訪問した際に使う韓国語の自己紹介をみんなで練習し、仲を深めることができました。

韓国に着いて、空港で私はガイドさんに「あまり辛い」といわれたチゲスープを頼んで食べたところ、結構辛くて日本と韓国の辛さの基準の違いに驚きました。

その後、イムダン遺跡展示館に行って慶山市に大きな国があったという歴史を知り、城陽市に古墳があることとすこし似ているなど感じました。そして慶山市役所に行き、副市長さんに挨拶をした後、市議会に行きました。市議会ではできるだけ市民の声に応えようと努力しているところがどの国でも同じなのだなと思いました。夜ご飯は、プルコギを食べました。プルコギは焼いたものだと思っていたので鍋でお肉を煮ていた時は何かわからず、「これは何だろうね」とみんなで話しながら食べていました。これがプルコギと知ったときは常識が覆されて驚きました。

2日目は、新上^{シンサン}中学校に行きました。学校の門をくぐると新上中学校の生徒の皆さんが出迎えてくれてとてもうれしかったです。体育館に入って、一緒に行動するペアの子とたくさん話しました。最初は韓国語で少し話したのですが、何を話しているのか分からず、翻訳機を通して話をしました。しかし、緊張がほぐれていくと、日本語で話すよ

うになりすぐに仲が深まりました。プレゼント交換では、自分で編んだ四葉のクローバーのキーホルダーに「幸せが訪れますように」というメッセージを添えてプレゼントに入れたところ、とても喜んでくれてスマホのストラップにしてくれました。新上中学校の生徒はみんな友好的で、笑顔で話しかけてくれたのが記憶に残っています。中学校の食堂で給食を食べたときは日本の給食とは違って量が多くておなかいっぱいになりました。食堂のおばちゃんに「たくさん食べな！」と言われたとき、なんだか心が温くなりました。中学校を出る前には新上中学校の方とSNSの連絡先を交換しました。韓国でどのようなことをしたかという話や日本の桜の話をしたりと、今もメッセージを送り合っています。



バス移動の時には、趣味のことや日本に行ったらこんな場所に行ってみたい、こんな食べ物を食べたいなど、ペアの子以外の友達ともたくさん話しました。みんな本当に日本が大好きなことが伝わって、自分もうれしくなりました。カラオケに行ったときは、韓国の友達が日本の歌をたくさん歌ってくれてとてもいい思い出になりました。夜ご飯では、韓国のお土産でおすすめなものや日本のアニメの話などをして過ごしました。また、韓国にはプリンがあまり売っていないらしく、売っ

ていたとしてもとても高いので、日本に行ったらプリンが食べたいと言っていました。お別れの時に、「さみしいけど絶対会おうね！」と約束しました。次に会うときは韓国語で話せるように、まずはハングル文字を勉強しようと思います！

その日の夜は希望者が集まって、持ち寄りのお菓子でお菓子パーティーをしました。夜遅くまでそれぞれの学校の話などをして盛り上がりました。



キョンサン 慶山産業団地複合文化センター カラオケ室で

3日目は、慶山市から KTX という韓国の新幹線でソウルまで移動しました。ソウルの街は車が多く、道も日本よりも大きかったです。車間距離が近いのにとってもスピードが出ていて怖かったです。また、韓国は左ハンドルなので違和感がありました。明洞^{ミョンドン}では一時間以内で買い物をすませないといけないので、最後のほうは時間がなくてバタバタしながら会計をしました。店員さんは日本語が話せる人が多くいて、安心して会計をすることが

できました。その夜にはソウルタワーに行きました。みんなで「日本に帰りたくないね」と話したり、人狼ゲームをしてロープウェイの長い列に並んで待ちました。タワーから見たソウルの街はとても綺麗で目に焼き付いています。

4日目は、韓国の民族衣装であるチマチョゴリに着替えて景福宮^{キョンボックン}に行きました。景福宮では思った以上にチマチョゴリを着ている人が多く、とても華やかで素敵な場所でした。友達とたくさん写真を撮れてとても楽しかったです。その後、仁寺洞^{インサドン}に行ってお土産を買ったりして時間を過ごしました。屋台のチーズハットグを割り勘してみんなで食べたのが思い出になりました。

気づいた時には3泊4日の楽しい旅はあっという間に過ぎ去っていました。4日目の帰りのバスの中で「こんなに仲良くなれるとは思わなかったね」とみんなで笑いながら話していたのを鮮明に覚えています。この国際交流を通して、言語の壁の厚さを思い知ったけれど、その分「もっと韓国語を勉強して話せるようになりたい！」「もっとたくさんの国の人と話をして交流したい」と強く思いました。次に韓国の友達に会ったときは、日本語ではなく韓国語で話せるようになりたいです。

今回の韓国との国際交流のおかげで貴重な体験ができた上に大切な友達を作ることができました。一生の思い出になりました。本当にありがとうございました！



トンテグ 東大邱駅～ソウル駅



キョンサン
東大邱駅でお世話になった慶山市の方とはお別れです（涙）
派遣団は KTX でソウル駅へ。
ソウルまでは1時間50分





「国境を超えた優しさ」

城陽中学校 2 年 ^{たに} 谷出 ほのか

三月二十四日の朝、私は大きな不安と慣れないスーツケースを持って市役所に向かっていました。もともと、この韓国派遣は友達に誘われて行くことにしたので、韓国のことはあまり知りませんでした。そのため、韓国といえば、K-POP やコスメなどが有名としか知りませんでした。

関西国際空港に着いたときは、外国に行くという実感が全く湧かなくてすごくドキドキしていました。搭乗口で飛行機を待っていた時、席が空いておらず、ある方の隣に座りました。すると、その方は韓国の方で、私たちに優しく話しかけてくださり、自然と会話が始まりました。そのおかげで少しずつ緊張がほぐれ、海外への不安も和らいでいきました。そして、たった一時間で、私は韓国の地に足を踏み入れました。韓国の空港の中は見たことない文字ばかりで海外に来た事を実感しました。

そのあと、市役所を訪問しました。そこではたくさんの職員の方に拍手で温かく迎えていただき、思っていた以上の歓迎にとっても驚きました。市議会も見学することができ、普段見ることのない場所だったのでとても新鮮で印象に残りました。そこで地域のために行われている取り組みを知り、日本との違いや共通点を知るきっかけになりました。



そのあと、プルコギをご馳走になりました。初めて見る韓国の食べ物をみんなで食べることで仲を深めることができました。

二日目は慶山市^{キョンサン}の中学校を訪問し、現地の中学生と様々な交流をしました。私がこの日一番嬉しかったのは、体育館で歓迎会が始まるのを待っていた時です。隣にいたペアではない女の子が、私に日本語で一生懸命話しかけてくれました。最初はとても驚きましたが、自分のために日本語で伝えようとしてくれていることがとても嬉しくて、私も頑張って練習した短い韓国語の自己紹介をすることができました。相手が笑顔でリアクションしてくれた時は、通じたことの嬉しさと、もっと韓国語を喋れるようになりたいという気持ちが大きくなりました。その後、その子とは別れたけれど、廊下を歩いていたら私を見つけて声をかけてくれました。



また、私のペアの子は男の子で最初は話す勇気がなかったけれど、バスで隣になった時に翻訳機を使って同じ好きなアニメについて話すことができました。私よりも日本のアニメに興味があることを知ってとても驚きました。私は韓国語を単語ぐらいでしか話せないのに、相手は日本語がとても上手で、日本に興味がある事を知り、嬉しいという気持ちの反面、今まで SNS などから得た情

報から知らないうちに韓国の人に対しての先入観を持ってしまっていたことに気づきました。でも実際に現地の人と関わる中で、その考えは一部の情報で判断しているだけなのだと感じました。韓国の中学生と過ごした一日はとても楽しかったです。

三日目はソウルの街を観光しました。^{ミョンドン}明洞では日本とはまた違った韓国らしさがあり、韓国の流行やお店の雰囲気をみることでよかったです。また、お店の人が値段を少し安くしてくれたり、日本語で積極的に話しかけてくれたりして親しみやすさを感じました。この日を通して韓国の

人の温かさにも触れることができ、印象に残る時間となりました。

四日目はチマチョゴリを着ました。普段着ることのない伝統的な衣装を身につけることによって、日本の着物とはまた違った魅力を感じることができました。

三泊四日の韓国派遣を通して、自分が知らなかった韓国を知ることができてよかったです。自分の足で現地に行き、自分の目で見ることでわからないことがあるのだと強く感じました。今回の経験を大切に、これから様々なことに挑戦していきたいです。

韓国茶道体験

^{キョンサン}慶山産業団地複合文化センター 2F の学習室では、韓国の伝統茶を楽しむとともに、韓国の礼節を学び、日本の茶道との違いを比較体験できます。

心を清め感謝してお茶をいただくことは、日本の茶道と似たところがあります。癖がなくやさしい味のお茶でした。





「韓国派遣感想文」

東城陽中学校2年 なかもと 中本 るか 琉禾

今回、私が参加した城陽市の韓国派遣は、これまでの自分の考え方や価値観を大きく変える、とても貴重な経験となりました。特に印象に残っているのは、韓国の学生との交流です。韓国の学校を訪問する前は、正直に言ってとても不安で緊張していました。言葉が通じるのか、うまくコミュニケーションが取れるのかなど、不安な気持ちがとても大きかったからです。しかし、実際に韓国の学生と会ってみると、その不安はすぐに消えました。彼らはとても明るく優しく接してくれて、言葉が完全に通じなくても、ジェスチャーや簡単な英語、そしてお互いに理解しようとする気持ちで、十分に気持ちを伝え合うことができたからです。



キョンサン
慶山市議会訪問での挨拶

交流の中で特に印象に残っているのは、慶山複合文化センターへ韓国の学生と一緒に行ったことです。最初は遠慮もあり、なかなか自分から話しかけることができませんでした。しかし、韓国の学生が積極的に話しかけてくれたことで少しずつ自分も心を開くことができました。好きな音楽や食べ物、学校生活について話していくうちに、日本と韓国で共通している部分がたくさんあることに気づきました。同じ中学生として、似たような悩みや楽しみを持っていることも分かり、とても親近感を覚えました。



城陽公園で

一方で、文化や習慣の違いも感じました。例えば、学校での過ごし方や給食など日本とは異なる点が多くありました。最初は驚くこともありましたが、それらの違いを知ることがとても新鮮で、世界にはさまざまな考え方ややり方があるのだと実感しました。そして、自分が当たり前で過ごしていた学校生活は、必ずしも他の国の当たり前ではないということを学びました。

また、今回の交流を通して、「伝えようとする気持ち」の大切さを強く感じました。言葉の壁があったとしても、相手に伝えたいという気持ちがあれば、コミュニケーションは成り立つということを実感しました。実際に、単語だけの英語や身振り手振りをしたり翻訳機を使いながらも、お互いに笑い合いながら会話を続けることができました。この経験から、間違いを恐れずに積極的に話すことはとても大切なことなんだと学ぶことができました。

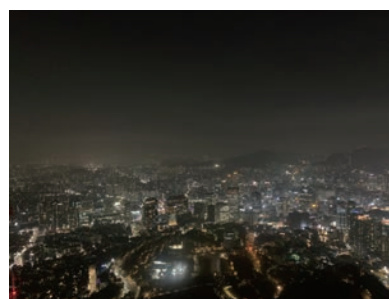
さらに、韓国の学生たちと過ごして、「相手を思いやる気持ち」の大切さにも気づきました。私たちが困っているとすぐに助けてくれたり、日本語を使い分かりやすく説明してくれたりする姿を見て、とても温かい気持ちになりました。自分もこのように、自分が完ぺきに話せる言葉ではな

別れの時間が近づくにつれて、「もっと一緒に話したい」「まだ別れたくない」という気持ちが強くなりました。最後に連絡先を交換し、「また会おう」と約束して二人でハグをした際に、この出会いが一度きりではなく、これからも続いていくものだと感じ、とても嬉しくなりました。日本に帰ってきてからも連絡を取り合い、とても親密な仲になることができました。

[illegible]

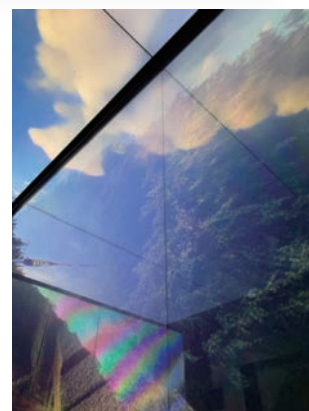
今回の韓国派遣で得られたことは、私にとって一生の宝物です。特に韓国の学生との交流を通して、言葉や文化が違っていても、相手を理解しようとする気持ちがあれば、必ず心を通わせることができるという大切なことに気づくことができました。また、日本との文化の違いや、チマチョゴリなどの韓国特有の文化に触れたことで、自分の視野も大きく広がりました。この経験をとおして学べたことを、これからの生活に生かしていきたいです。また、今回自分がどれだけ狭い世界で過ごしていたのかをととても実感しました。この派遣だけで満足するのではなく、気になったことは調べ、さまざまな国の人と積極的に関わりながら、自分自身をもっと成長させたいです。本当に、この韓国派遣に参加してよかったなと感じます。そして、韓国で出会えた人たちとのつながりを大切にし、いつかまた再会できる日を楽しみにしています。

A tall, illuminated tower (N Seoul Tower) at night, surrounded by trees and a traditional Korean building. The tower is brightly lit with red and white lights, and its observation deck is visible. The surrounding area is dark, with some trees and a traditional Korean building visible in the foreground.



ナムサン

夜になるとライトアップされるタワーの照明の色は、PM2.5の予報濃度に応じ、4つに分けられています。赤色の場合は注意報で、できるだけ外出は避けるか、外出する際にはマスクなどの準備が必要です。その次は黄色、通常程度の場合は緑色、大気が澄んだ状態にある場合には青色の照明となります。





「短かった4日間」

城陽中学校2年 ひぐち樋口 ももか百香

私は、今回の訪問が2回目の海外でした。その時は家族で行ったので不安はありませんでしたが、家族のいない海外は不安なことも多かったです。韓国に行く前の集まりでは友達が作れるのか不安でしたが、現地に着いて話している間に、日本のみんなとも韓国の中学生とも連絡先を交換するほど仲良くなれて不安もなくなっていました。

1日目には、イムダン遺跡に行ってキョンサン慶山の歴史を知りました。アブドクコク慶山市は昔、押督国という国に属していて、遺跡にはその頃のお墓が再現されていてありました。日本と同じで、王様は大きなお墓に埋葬されていたことを知りました。

その後、慶山市の市役所と議会を訪問させてもらいました。表敬訪問では代表で挨拶をしました。慣れない韓国語で緊張もしましたが、前を向いて話すことができました。時間が押していたのであまり多くの話を聞くことはできませんでしたが、議会で慶山の魅力をたくさん知ることができて勉強になりました。



慶山市役所を出た後は、日本でいう焼肉「プルコギ」を食べました。最初は、山盛りに肉がのっていたので食べきれるか心配でしたが、意外と食べられたので驚きました。その夜、ホテルに行った時スーツケースの鍵を無くしてしまって大変

でしたが、そのあとは友達といっぱい話せて楽しかったです。

2日目は一番楽しみにしていた中学校訪問があり、朝からシンサン新上中学校を訪問しました。中学校に入ったらすぐに中学生が迎えてくれました。すごく多くの人が歓迎してくださって嬉しかったです。歓迎会では、バンド部とダンス部のパフォーマンスがカッコよくて、日本では味わえない迫力がありました。その後、コチュジャンづくりを体験しました。そこで、味噌と醤油が同じような過程で作られていると知りました。給食時間にはビビンバを食べました。すごく辛かったので、韓国の中学生にも「辛くないの？」と聞くと、辛いけど我慢して食べていると知ってすごく驚きました。私とペアになった人は男の子で、最初は言語の壁があり話しにくかったのですが、一緒に色々なところに行ったり翻訳機を使って話したりしていくうちに自然と仲良くなれました。ペアの男の子だけでなく、ほかの友達のペアの子や一緒にまわることが出来なかった子ともインスタを交換したりして仲良くなれて、楽しい時間があっという間に過ぎました。その夜は、3人部屋の人達のところにみんなで集まって、中学校で楽しかったことなど色々な話をしました。

3日目になると、最初の不安だった気持ちもなくなり、「今日は何があるかな？楽しみだね！」と弾んだ会話が多くなってきました。9時ごろにバスに乗り込み、トンテグ東大邱駅から電車に乗ってソウルに向かいました。韓国の駅のホームは日本と違って低くて電車に乗り込みにくかったことを覚えています。ソウル駅に近づくにつれて、周りの建物はより一層高くなっていきました。駅に着くと、人が多く迷子になりそうでした。慶山とは違う雰囲気でも面白かったです。お昼ご飯には、石焼ビビンバを食べました。ビビンバには種類がある

ことを聞いたので調べてみると、無限に近い種類があり、地域や味付けによって種類が変わることを知りました。お昼ご飯の後は、1時間の自由時間があつたので買い物をしました。買い物では、見たことのないものも多く、韓国の文化に触れることが出来ました。



明洞での昼食 ビビンバ

その後、夜ご飯にサムギョプサルを食べました。日本で食べるサムギョプサルよりも、肉が分厚くてボリュームがありました。肉に付ける味噌がすごくおいしかったです。その後は、ソウルタワーに行きました。ソウルタワーから見た夜景はすごく綺麗でした。日本では絶対に見られない高さか

らの景色だったので、目に焼き付けておこう！と思ってしっかり見ました。

4日目は朝から、着てみたかったチマチョゴリキョンボックンを着て景福宮をまわりました。最初は動きにくかったですが、昔はみんな着ていたと考えるとすごいと思いました。チマチョゴリを着たあとは、韓国での最後のご飯にタッカンマリを食べました。中に入っているトッポギはもちもちしておいしかったです。そしてたくさんのお土産を買いました。最初はお会計で間違ったお金を出してしまったこともありましたが、それも良い思い出になりました。

この4日間はすごく短かったです。最初は、「挨拶がうまくいくか」「中学生としっかり交流できるか」不安なことも多かったですが、楽しく終わることが出来て良かったです。

最後に、貴重な4日間を支えてくださった皆さんありがとうございました。この経験は今後の人生の大きな支えになると思います。来年は韓国の中学生が来るそうなので、私の中学校に来ることになれば参加したいと思います。本当にありがとうございました。



ミョンドン
明洞

待ちに待った明洞での
ショッピング！
集合場所はBT21のイラストが目印。
みんな時間を厳守して、約束の時間
に戻って来ました。
時間が全然足らなかったという
声も。。



ミョンドン
明洞での昼食 ビビンバ





「中学生韓国派遣に参加して学んだ事」

城陽中学校 2 年 ^{まつい}松井 ^{あんじ}杏詩

今回、城陽市国際交流協会の事業として韓国の慶山市^{キョンサン}へ派遣して頂けたことは、私にとって一生忘れることのない、かけがえのない貴重な経験となりました。日本を離れ、実際に海外の地で生活し、現地の人々と直接関わるという経験は少なく、多くの学びと気づきを得ることができました。

実際に韓国を訪れてまず感じたのは、文化や言葉の違いです。街の看板や聞こえてくる言葉、食事の味付けやマナー、学校での過ごし方など、日本と似ている部分もある一方で異なる点も多く、とても新鮮で興味深く感じました。例えば、学校での授業の雰囲気や生徒同士の関わり方には、日本とはまた違った活気があり、その中で自分の視野が広がっていくのを実感しました。



夕食会 COZYHOUSEで

特に印象に残っているのは、現地の中学生との交流です。お互いの国の文化や学校生活について紹介し合ったり、一緒に活動したりする中で、国や言葉が違ってても、同じ中学生として共通する考えや楽しさがたくさんあることに気づきました。笑顔やリアクション、ちょっとした仕草など、言葉がなくても通じ合える瞬間があり、人と人とのつながりの温かさを感じることができました。

私はもともと、初対面の人ともすぐに仲良くなることができることが自分の強みだと思っていました。しかし、今回新上中学校^{シンサン}の生徒たちと関

る中で、その強みが思うように発揮できない場面がありました。その大きな理由が、言葉の壁です。伝えたいことが頭の中にあってもすぐに言葉にできず、また相手の言っていることを十分に理解できないもどかしさを強く感じました。そのことから、言葉の壁は自分が想像していた以上に高く、大きなものであると実感しました。それでも、簡単な英語や身振り手振り、翻訳アプリなどを使いながら少しずつ思いが伝わったとき、私は大きな喜びを感じました。たとえ完璧な言葉でなくても、伝えようとする気持ちや相手を理解しようとする姿勢があれば、心は通じ合うのだと実感しました。「言葉が通じる」ということの楽しさや、人と心がつながる瞬間の嬉しさは、今回の経験の中でも特に心に残っています。

現地の生徒たちはとても温かく、積極的に話しかけてくれました。私がうまく話せないときでも笑顔で待ってくれたり、ゆっくり話してくれたりする姿を見て、その優しさに深く感動しました。その経験から、「もっと自分からも積極的に関わりたい」という気持ちが強くなり、勇気を出して話しかけることの大切さを学びました。



Nソウルタワー 展望台で

私は将来、海外の人と関わる仕事に就きたいと考えており、キャビンアテンダントになることが夢です。今回の経験を通して、その夢はより具体

的で現実的な目標へと変わりました。同時に、自分の課題もはっきりと見えてきました。それは語学力です。どれだけ人と関わることが好きでも、言葉が通じなければ自分の思いや考えを十分に伝えることはできません。また相手を深く理解することも難しいと感じました。だからこそ、自国の言葉だけでなく、他国の言語を学ぶことの重要性を強く実感しました。これからは英語の学習にさらに力を入れるとともに、今回の経験をきっかけに興味を持った韓国語にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。また、韓国だけでなく、

さまざまな国や文化に関心を持ち、広い視野を持った人間に成長していきたいと思います。

今回の派遣を通して、私は多くのことを学び、自分自身の考え方や行動にも変化が生まれ、大きく成長することができました。このような貴重な機会を与えてくださった先生方や関係者の皆様には、心から感謝しています。この経験で得た学びや気づきをこれからの学校生活や将来にしっかりと生かし、自分の夢に向かって努力を続けていきたいです。

キョンサン

慶山産業団地 複合文化センター

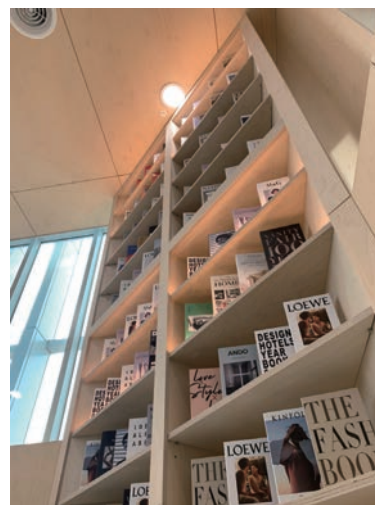
慶山産業団地複合文化センターは、慶山産業団地内に建設された勤労者や市民のための施設です。2025年10月に開館したこのセンターは地上3階の規模でブックスクエアとカフェ、スクリーンゴルフ場、コインカラオケ、文化遊び、勤労者学習館、企業の育成空間など多様で便利な体験施設を兼ね備えています。勤労者と市民が、日常生活の中で文化活動と余暇を楽しみ、交流することのできる活動空間として運営されています。



ここでもデジタル掲示板で歓迎



ゲームセンターもあります



ブックスクエア

キョンサン
慶山市長・議長表敬訪問



イドヒョン
李道炯副市長と森澤団長との記念品交換



アンムンギル
安文吉議長と森澤団長との記念品交換



シンサン 新上中学校

ネームプレートを持って歓迎



学校紹介では、ダンスやファッションショーなど様々な活動のスライドもありました。



全生徒が体育館に集まって、歓迎会を盛大にいただきました。プロジェクターに韓国語と日本語の翻訳が映し出されて、言語によるタイムラグは全く感じられませんでした。

伝統コチュジャン作り体験

メジュは、韓国の伝統的な調味料であるコチュジャン、テンジャン（味噌）、カンジャン（醤油）などの原料で、茹でた大豆をつぶして成形し、乾燥・発酵させたものです。



메주 (메주)



夕食会 COZY HOUSE



慶山市での最後の夕食は
イタリアンレストランでした



トンデモン 東大門デザインプラザ



2014年3月に誕生した東大門
デザインプラザ（DDP）は外観
が流線型の非定型的な建築デザ
インが特徴で、夜にはライトアッ
プされます。建物の設計はイラ
ク出身の建築家のザハ・ハディッ
ド氏が担当。延面積 85,320 m²
で大型催物場「アートホール」、
「ミュージアム」、「デザインラ
ボ」、「デザインマーケット」か
らなる複合施設です。

キョンボックン 景福宮



骨折のため別ルートで見学



タッカンマリ

タッカンマリは韓国語で「鶏（タッ）」
と「一羽（ハンマリ）」を組み合わせ
た言葉で、直訳すると「鶏一羽」を意
味します。料理としては、丸鶏を大き
な鍋でじっくり煮込み、じゃがいもや
長ねぎ、韓国のお餅（トッポギ）な
どを加えることが一般的です。



文集の発行にあたって

今回の中学生韓国派遣事業は、21 回目(1 回は諸事情により中止)の開催です。派遣期間は3月24日から27日までの4日間で、派遣中学生12名、引率者3名は、予定通りの行程を終えて、全員元気に帰って参りました。当事業の所期の目的である、「次代を担う青少年の国際理解をはかること」については十分に果たすことが出来たと思います。



李道炯副市長と森澤団長との記念品交換

第1日目、釜山金海に到着後、2025年5月に開館されたイムダン遺跡展示館を見学しました。映像を駆使して展示の説明をしているのに驚きました。続いて慶山市役所への表敬訪問をいたしました。当日、趙顯逸市長は公用のため不在で、李道炯副市長が対応してくださいました。村田市長からの親書とお土産を渡し記念品交換をしました。学生達は全員、韓国語で上手に挨拶をしてくれました。

続いて慶山市議会を訪問し、安文吉議長にお会いしました。そして立派な議場を見学させて頂きました。

第2日目、午前10時に、新上中学校を訪問いたしました。中学校へ到着と同時に多くの生徒の出迎えを受け、歓迎式が全校生徒320人出席のもと、講堂で行われました。学生同士の挨拶や自己紹介、記念品交換が行われ、学生によるバンド演奏やダンス部のプロの様なダンスをみせてもらい感動いたしました。

伝統料理(コチュジャン)の調理体験をして、学校給食を頂き、午後からは、慶山複合文化センターへ移動しました。韓国伝統文化体験として、韓国のお茶の作法を習いました。

そして、生徒同士でゲームをしたりカラオケを楽しみました。

夕食は、両国の中学生一緒に楽しく全員でいただきました。

第3日目、朝9時にホテルを出発し、東大邱駅か

らKTXでソウル駅まで移動しました。

ソウル市内では、繁華街で有名な、明洞^{ミョンドン}で買い物をしました。夜はロープウェイでソウルタワーに上り夜景を満喫しました。

第4日目、景福宮^{キョンボックン}を韓服に着替えて、見学いたしました。韓国の歴史と文化について詳しくガイドさんから説明を受け大変勉強になりました。

そして、仁川空港から夕方の便で関空へ全員元気に帰って来ました。

今回、慶山市様には1日目の釜山金海空港の出迎えから、3日目の東大邱駅まで3日間、市職員の同行があり、移動は全て慶山市公用バスでお世話になりました。また、1日目の歓迎晩餐会・2日目の夕食会と2回も食事会を開いていただき、これまでと同様に姉妹都市交流を積極的に力強く推進されていることを感じました。

今回、派遣団に参加してくれました12人の学生の皆様は、韓国語が上手でそれぞれの場所で自己紹介を立派にしてくれたと思います。実際に韓国の文化や習慣に触れ体験したことを、これからの人生に生かしていただければと思います。また、慶山市の生徒たちとの交流を通じて多くの友達が出来たことと思います。いつまでも大切な友として交流を続けて行って欲しいと思います。

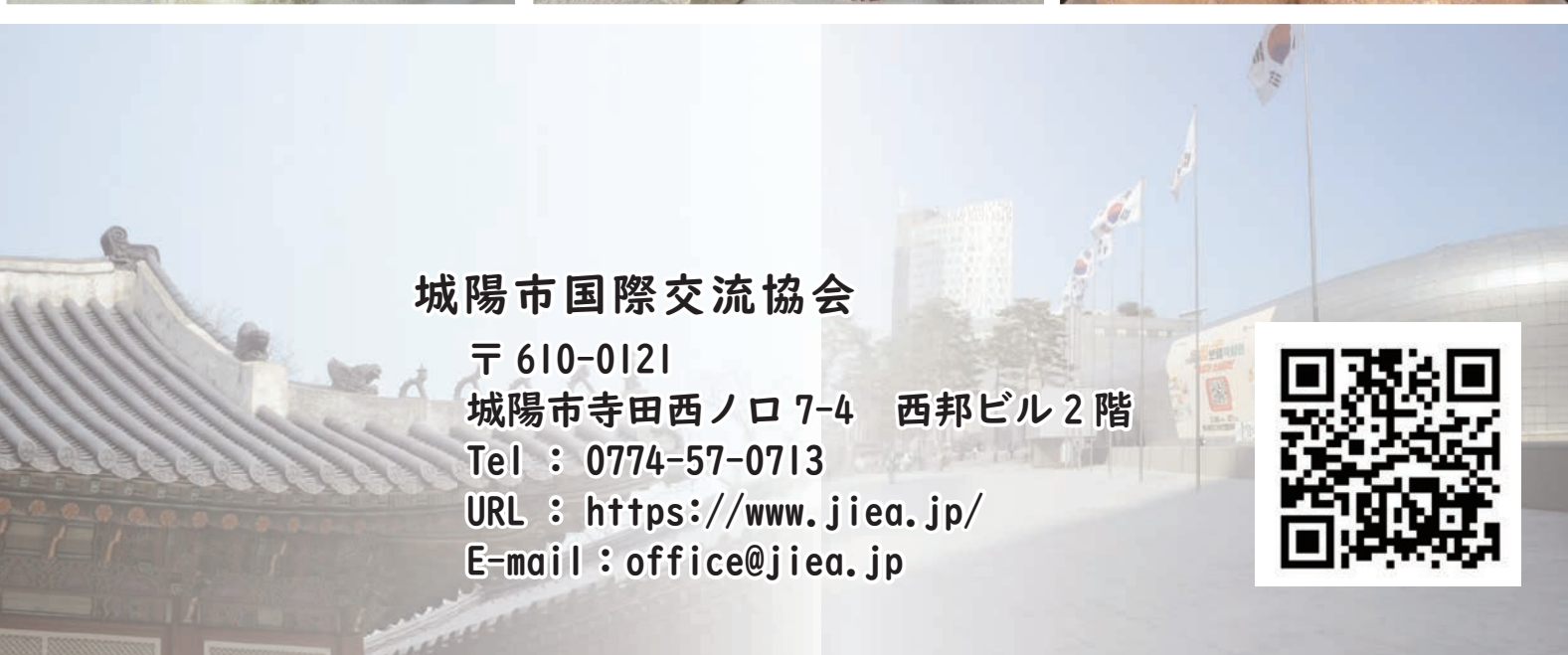
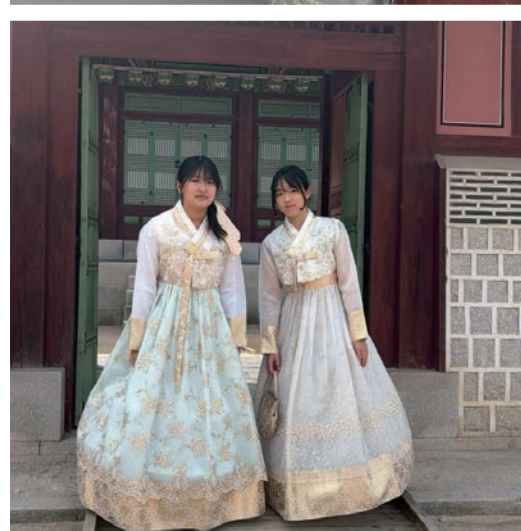
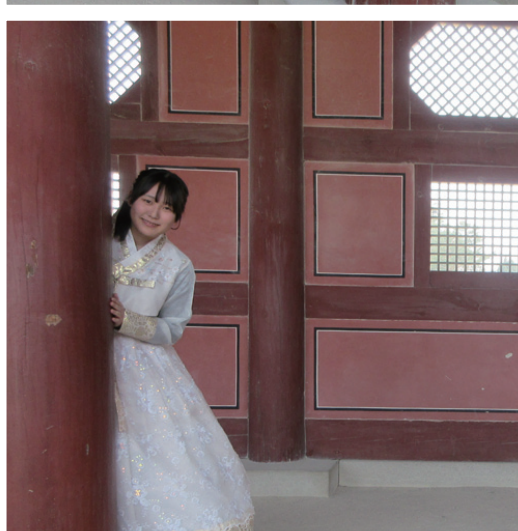
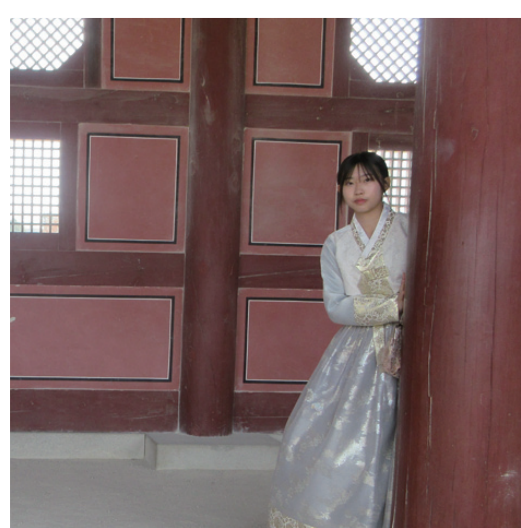
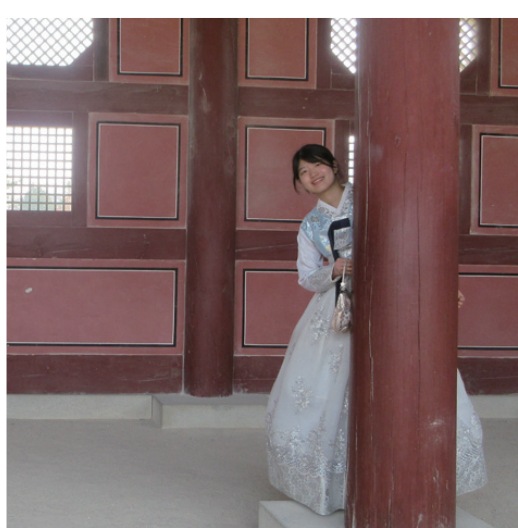
結びに、今回の中学生韓国派遣事業に対しまして、村田正明城陽市長はじめ、多くの皆様にご支援とご協力をいただきましたことに対しまして心から感謝申し上げます。



慶山市のインタビューを受ける森澤会長

2025年度中学生韓国派遣団団長
城陽市国際交流協会会長

森澤 博光



城陽市国際交流協会

〒610-0121

城陽市寺田西ノロ7-4 西邦ビル2階

Tel : 0774-57-0713

URL : <https://www.jiea.jp/>

E-mail : office@jiea.jp

